

全校登山

高甫小学校

「♪朝夕仰ぐ 明德に見せるこの意気 全校登山♪」高甫小学校校歌の三番で歌われる「全校登山」が、何といてもこの高甫小学校の一番大きな行事でしょう。

学年毎に目指す山がちがいます。「そうは言っても小学生が登るのだからハイキングぐらいのものかな？」と思っていたら大間違いです。本年度の登山は五月十八日土曜日。その日に向けて職員、PTA役員総出で準備や下見を行います。下見の際には倒木だらけ、落ち葉や枝だらけの場所を切り開き、子ども



もたちが登る道を整えていきます。当日は、ほとんどの保護者が参加をします。一緒に登山をし、一緒に登ることにします。初めは「ほとんど命がけなのではないか」と思える厳しい道ですが、子どもたちはがんばって登っていきます。これは、準備から当日まで保護者の支えがとても大きいからだと感じます。



途中で何度か「鉛交換」があり、これがとても楽しみになっています。大人も子どもも、自分だけの持ち物を交換して食べます。

心臓破りの坂をいくつも乗り越えてたどり着いた頂上で食べるお弁当は最高です。この全校登山は「地域の力」の偉大さを感じずにはいられない、すごい行事なのです。(宮崎 尚子)

伝統をさらに深める

東中学校

東中学生徒会では縦割り活動を長年大切にしてきました。二年前からは全校を二つのグループに分け、歌声コンテストや縦割清掃など様々な活動を縦割りグループで行ってきました。今年度の生徒会では伝統の縦割り活動を引き継ぎ、更に深めていきたいと考えました。そこで新しく「東ミーティング」という活動を始めました。これは生徒会の課題等を、縦割りグループを更に八人程度の少人数に分けたグループで話し合い、改善してこうという活動です。



一回目の東ミーティングは六月に行われ、「回収活動の参加率を上げるためには」という課題について話し合われました。「担当の委員だけでなく、みんなで気がついた人がみんなの声を聞いて意識を高める」「ポスターを目立つように教室の入り口に貼る」などの呼びかけの



工夫を共有しました。少人数のグループなので、学年を越えて意見を伝え合うことができ、それぞれで先輩・後輩の自分たちがどんな姿を見せなければいけないか考えることができました。新しく始まったこの活動を通して、伝統である縦割り活動を活発にし、生徒会がより良いものになるよう、生徒と共に活動していきたいと思っています。(星野 友美)

各校の教育活動特集

「いずみまつり」

日野小学校

本校では毎年十一月の日野地域文化祭と併せて、「いずみまつり」を開催しています。今年、台風19号による被害があったため地区の文化祭は中止となりましたが、子ども達が楽しみにしている行事だからと地区の皆様からも応援していただき、規模を縮小して開催しました。

午前は「名人講座」と題し、地区の様々な分野の名人の皆様にご協力いただき、講座を開設します。今年十六の講座を



設けました。地域の特長を活かした講座がたくさんあります。例えば「日野の生き物」講座は、近くの宮川に生息する生き物に直に触れたり、魚を釣ったりします。

生活・総合的な学習の時間の全校発表会

森上小学校

本校では、総合的な学習の時間を主体的対話的協働的で深い学びを創出するための中核に据えています。学んだ事を「伝え合う」ことを重視し、本年度十一月に生活・総合的な学習の全校発表会を初めて企画しました。参観日を高学年と低学年の二回に分け、それぞれ学習してきた成果をまとめて体育館ステージで発表し、全校で聴き合いました。学級毎又は学年で発表する場合もあり、それぞれ

の発達段階に応じた工夫のあるすてきな発表会になりました。児童がプレゼンテーション力を向上させ、学びを共有するいい機会になったと思います。児童一人一人が、体験を経てインプットしたことを整理・統合・分析・考察する学習過程に加え、さらに学習の成果をアウトプットする機会を設定することで「深い学び」につなげていこうと考えています。本校の実践はまだその途についたばかりですが、「学びを繋げる」



「学びに火をつける」工夫についての職員研修や実践を積み上げていきます。学習のまとめとしてのアウトプットをさらに工夫・充実させ、特色ある「プレゼンテーションまつり」の行事に育てていきたいです。(月岡 英明)



今年度、仁礼小では文科省の「つながる食育推進事業」に取り組み実施指定校の一つに選ばれ、様々な食育事業に取り組みしています。そんな中で「食」に関わって行ってきたことを紹介します。

全校お花見給食、今年四月二十三日に「お花見給食」を行いました。きれいな桜の花の下で、全校のみんで一緒に給食をいただきました。当日は晴天の下で、町別に分かれてシートに座り、異学年の友だちとも楽しくおしゃべりをしながら、おいしく給食を食べて、親睦を深めることができました。

食育の授業、須坂市学校給食センターの栄養教諭に来ていただき、授業してもらいました。六月、二年生では食事の姿勢



今後も、学校給食センターの栄養教諭の先生方と協力して、食についてより意識して生活できるように、学習を進めたいと思います。(田村 中)

本校の宝 75 「壮心不已」

相森中学校

「学校の宝は」と言われると、他校にはない、その学校独自で大切にしているものと考えられる。ならば、相森中学校の宝は「校訓」と「運動会」と言える。

校門から入ってすぐ左手にある石碑に刻まれた「壮心不已」(そうしんやまず)の文字。本校の「校訓」である。どの学校にも教育目標はあるが、「校訓」のある中学校は少ないのではないだろうか。「壮心不已」とは、「常に志を高くもって、いつも壮心を抱き続けよう」という意味で、第七代北村堯校長先生が、中国の詩から「老いた駿馬は既に老いてもなほ千里を馳せる」という部分を引用されて、当時の生徒たちによく説かれていたこと由来する。以降、相森中生にとって目指すべき姿として、受け継がれてきている。本校の重点活動の一つでもある清掃活動は「壮心清掃」と名付けられており、スクールカラーである濃緑に「壮心不已」と白字で



染め抜かれた手ぬぐいを全校生徒が被って清掃をしている。

九月二十八日に実施された「校庭大運動会」。終日わたる運動会を実施しているのは、県内では本校と柳町中と赤穂中の三校のみと聞いている。校歌の一節に「ああ握の黒土も、創業の日を語らずや」とあるように、今の場所に校舎が建設された当時、終戦まもない時期で、費用や重機はなく、生徒や先生・保護者・地域の皆さんのまさに手作りによって造られた校庭。その完成を皆で喜び、記念として第一回運動会が開催されて以来、今年で72回を数える。運動会における各学年の表現種目は、「一年生がスタンツ(組体操・二年生がソーラン・三年生が行進)」に定着してきている。夏休み中からプロジェクターの生徒が中心となり、動きの内容を考えたり、練習計画を立てたりして、主体的に取り組む姿を大切にしている。当日は、保護者の方々に加え、多くの地域の皆様にも応援いただき、改めて地域に支えられている学校だと感じる。これからの新しいものを取り入れつつ、脈々と受け継がれてきた伝統を生徒とともに守っていききたい。

まさに「不易流行」である。(宮入 勝彦)